

計画段階評価対応方針

【河川事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
<p>矢口川総合内水緊急対策事業 中国地方整備局</p>	<p>・平成22年7月洪水では、JR芸備線軌道下0.5mまで浸水し、運転見合わせ。病院2戸、高齢者福祉施設1戸、事業所7戸で浸水被害が発生した。</p> <p>・太田川の洪水時には、矢口川水門を閉鎖して本川から逆流を防止するが、矢口川の水位上昇により、浸水被害が生じるため、矢口川の水位低下のための抜本的な対策が必要。</p>	<p>・矢口川総合内水対策計画の目標である年超過確率1/10の降雨に対して、国・県・市の連携により、内水による床上浸水被害を解消する。</p>	<p>・年超過確率1/10の洪水に対して、床上浸水被害を解消するために複数の治水対策案を立案した。</p> <p>・矢口川での適用性を考慮して、「放水路案」「排水機場案」「遊水地等案」を抽出して、7つの評価軸（「安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」）について評価した。</p> <p>（案1）放水路案 ・矢口川トンネル放水路（6m³/s） ・排水機場（2m³/s）増設</p> <p>（案2）排水機場案 ・排水機場（8m³/s）増設</p> <p>（案3）遊水地等案 ・遊水地の整備（3.4万m³） ・既設ため池の嵩上げ（1.2万m³） ・排水機場（5m³/s）増設</p>	<p>・「コスト」について最も有利な案は「排水機場案」であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素はないと考えられるため、「排水機場案」による対策が妥当。</p>

【河川事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
<p>山国川床上浸水対策特別緊急事業 九州地方整備局</p>	<p>・直轄管理区間において、平成24年7月3日洪水により、床上浸水131戸、床下浸水62戸、浸水面積40.7haの被害が発生し、その後、平成24年7月14日洪水においても再びはん濫が生じ、中上流部において、床上浸水121戸、床下浸水62戸、浸水面積41.1haの被害が発生した。</p> <p>・平成24年7月3日、14日と続けて床上浸水戸数が100戸を超える浸水被害が発生しており、同規模の洪水に対して、家屋の床上浸水を解消させる抜本的な治水対策が必要。</p>	<p>・平成24年7月3日洪水規模に対して、家屋の床上浸水被害を解消する。</p>	<p>・平成24年7月3日洪水に対して、家屋の床上浸水被害解消を達成するための複数の治水対策案を立案した。</p> <p>・山国川への適用性を考慮して、「築堤案」「輪中堤＋宅地嵩上げ案」「複合案」を抽出して、7つの評価軸（「安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」）について評価した。</p> <p>（案1）築堤案 ・築堤及び堤防の嵩上げにより対応</p> <p>（案2）輪中堤＋宅地嵩上げ案 ・輪中堤の新設 ・宅地嵩上げ ・築堤 ・堤防嵩上げ</p> <p>（案3）複合案 ・輪中堤の新設 ・宅地嵩上げ ・築堤 ・河道掘削 ・樹木伐採</p>	<p>・「コスト」について最も有利な案は、「複合案」であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素はないと考えられるため、「複合案」による対策が妥当。</p>